CHAPTER 16

# LDAP 認証の設定

Cisco Unified Communications Manager では、Lightweight Directory Access Protocol（LDAP）ディレクトリの設定は次のウィンドウで行います。

- [LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)]
- [LDAP ディレクトリ (LDAP Directory)]
- [LDAP 認証 (LDAP Authentication)]
- [LDAP フィルタ (LDAP Filter)]

LDAP ディレクトリの情報と LDAP 認証の設定値を変更できるのは、お客様の LDAP ディレクトリからの同期化が Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)] ウィンドウで使用可能にされている場合だけです。

LDAP 認証の情報を設定するには、次のトピックを参照してください。


- 「LDAP 認証の設定値」（P.16-1）
- 「LDAP 認証の情報の更新」（P.16-4）
- 「関連項目」（P.16-5）


## LDAP 認証の設定値

認証プロセスでは、システムへのアクセスを許可する前に、ユーザ ID とパスワード/PIN を検証することによってユーザのアイデンティティを確認します。確認は Cisco Unified Communications Manager データベースまたは LDAP 社内ディレクトリに対して行われます。

LDAP 認証を設定できるのは、[LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)] ウィンドウで LDAP 同期化を使用可能にした場合だけです。

同期と LDAP 認証の両方が使用可能になっている場合、システムは常に Cisco Unified Communications Manager データベースに対してアプリケーション ユーザおよびエンド ユーザの PIN を認証します。エンド ユーザのパスワードは社内ディレクトリに対して認証されるので、エンド ユーザは社内ディレクトリのパスワードを使用する必要があります。

同期だけが使用可能になっている（LDAP 認証は使用可能になっていない）場合、エンド ユーザは Cisco Unified Communications Manager データベースに対して認証されます。この場合、管理者は Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウでパスワードを設定できます。

表 16-1 では、LDAP 認証の設定値について説明します。関連する手順については、「関連項目」（P.16-5）を参照してください。

表 16-1　LDAP 認証の設定値

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| **[エンドユーザ用 LDAP 認証 (LDAP Authentication for End Users)]** | |
| [エンドユーザ用 LDAP 認証の使用 (Use LDAP Authentication for End Users)] | LDAP ディレクトリとの認証をエンド ユーザに要求するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフのままにすると、認証はデータベースに対して実行されます。<br>（注）　このフィールドにアクセスできるのは、[LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)] ウィンドウで LDAP 同期化を使用可能にした場合だけです。 |
| [LDAP マネージャ識別名 (LDAP Manager Distinguished Name)] | LDAP マネージャのユーザ ID を入力します。このユーザは、該当する LDAP ディレクトリへのアクセス権を持つ管理ユーザです。<br>（注）　このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合だけです。 |
| [LDAP パスワード (LDAP Password)] | LDAP マネージャのパスワードを入力します。<br>（注）　このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合だけです。 |
| [パスワードの確認 (Confirm Password、半角英数字のみ )] | [LDAP パスワード (LDAP Password)] フィールドに入力したパスワードをもう一度入力します。<br>（注）　このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合だけです。 |
| [LDAP ユーザ検索ベース (LDAP User Search Base)] | ユーザ検索ベースを入力します。Cisco Unified Communications Manager は、ユーザをこのベースで検索します。<br>（注）　このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合だけです。 |
| **[LDAP サーバ情報 (LDAP Server Information)]** | |
| [サーバのホスト名または IP アドレス (Host Name or IP Address for Server)] | 社内ディレクトリをインストールした場所のホスト名または IP アドレスを入力します。<br>（注）　このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合だけです。 |

表 16-1　LDAP 認証の設定値 （続き）

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| [LDAP ポート (LDAP Port)] | 社内ディレクトリが LDAP 要求を受信するポートの番号を入力します。このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合だけです。<br><br>Microsoft Active Directory および Netscape Directory のデフォルト LDAP ポートは 389 です。Secure Sockets Layer（SSL）のデフォルト LDAP ポートは 636 です。<br><br>社内ディレクトリの設定方法によって、このフィールドに入力するポート番号が決まります。たとえば、[LDAP ポート (LDAP Port)] フィールドを設定する前に、LDAP サーバがグローバル カタログ サーバとして機能するかどうかや、設定で LDAP over SSL が必要かどうかを決定します。次のポート番号のいずれかを入力することを考慮してください。<br><br>**LDAP サーバがグローバル カタログ サーバでない場合の LDAP ポート**<br>• 389：SSL が必要でない場合 （このポート番号は、[LDAP ポート (LDAP Port)] フィールドに表示されるデフォルトです）。<br>• 636：SSL が必要な場合 （このポート番号を入力する場合は、[SSL を使用 (Use SSL)] チェックボックスがオンになっていることを確認してください）。<br><br>**LDAP サーバがグローバル カタログ サーバである場合の LDAP ポート**<br>• 3268：SSL が必要でない場合。<br>• 3269：SSL が必要な場合 （このポート番号を入力する場合は、[SSL を使用 (Use SSL)] チェックボックスがオンになっていることを確認してください）。<br><br>**ヒント** 設定では、上記の項目に記載されたオプションとは異なるポート番号の入力が必要になる場合があります。[LDAP ポート (LDAP Port)] フィールドを設定する前に、ディレクトリ サーバの管理者に問い合せて、入力する正しいポート番号を確認してください。 |

表 16-1　LDAP 認証の設定値 （続き）

| フィールド | 説明 |
|---|---|
| [SSL を使用 (Use SSL)] | セキュリティのために SSL 暗号化を使用するには、このチェックボックスをオンにします。<br>（注） LDAP over SSL が必要な場合は、社内ディレクトリの SSL 証明書を Cisco Unified Communications Manager にロードしておく必要があります。『*Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide*』に、証明書のアップロード手順についての説明があります。<br>[SSL を使用 (Use SSL)] チェックボックスをオンにした場合は、[LDAP 認証の設定 (LDAP Authentication Configuration)] ウィンドウの [ サーバのホスト名または IP アドレス (Host Name or IP Address for Server)] フィールドに、社内ディレクトリの SSL 証明書に存在する IP アドレスまたはホスト名を入力します。証明書に IP アドレスが含まれている場合は、IP アドレスを入力します。証明書にホスト名が含まれている場合は、ホスト名を入力します。証明書に存在するとおりに IP アドレスまたはホスト名を入力しなかった場合は、CTIManager を使用するアプリケーションなど、一部のアプリケーションに問題が発生することがあります。 |
| [ 他の冗長 LDAP サーバを追加 (Add Another Redundant LDAP Server)] | 行を追加して、この他のサーバに関する情報を入力できるようにするには、このボタンをクリックします。<br>（注） このボタンにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合だけです。 |

# LDAP 認証の情報の更新

LDAP 認証の情報を更新する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

[LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)] ウィンドウにある [LDAP サーバからの同期を有効にする (Enable Synchronizing from LDAP Server)] チェックボックスの設定によって、認証の設定値を変更できるかどうかが決まります。LDAP サーバとの同期化が使用可能になっている場合、LDAP ディレクトリの情報および LDAP 認証の設定値は変更できません。LDAP の同期化の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「ディレクトリの概要」を参照してください。

逆に、LDAP ディレクトリの情報および LDAP 認証の設定値を管理者が変更できるようにするには、LDAP サーバとの同期化を使用不可にする必要があります。

### 手順

**ステップ 1**　[ システム (System)] > [LDAP] > [LDAP 認証 (LDAP Authentication)] の順に選択します。

[LDAP 認証 (LDAP Authentication)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2**　適切な設定値を入力します（表 16-1 を参照）。

**ステップ 3**　[ 保存 (Save)] をクリックして、変更内容を保存します。

### 追加情報

「関連項目」（P.16-5）を参照してください。

# 関連項目

- 「LDAP 認証の設定値」（P.16-1）
- 「LDAP 認証の情報の更新」（P.16-4）
- 『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「ディレクトリの概要」
- 「LDAP システムの設定」（P.14-1）
- 「LDAP ディレクトリの設定」（P.15-1）
- 『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「アプリケーション ユーザとエンド ユーザ」
- 「アプリケーション ユーザの設定」（P.112-1）
- 「エンド ユーザの設定」（P.113-1）

## 関連項目